ことばは教えられるか
日本語教育における
教室実践を問い直す

細川英雄（早稲田大学大学院）
金龍男（早稲田大学）
吉武正樹（福岡教育大学）
牲川波都季（秋田大学）

ことばは教えなくともよい
―多様な目標から何を選ぶのか―

秋田大学
牲川　波都季
segawa@gipc.akita-u.ac.jp
http://www.pcix.akita-u.ac.jp/kokusai/segawa/index.htm

ことばを教える

- 特定の言語を使えるようにする

  ことだけを目指さねばならないのか。

  ことだけを目指すべきなのか。

- それ以外の可能性は？

1

ことばを使えるようにすることを目指す

直接的に，特定言語を使うための能力育成

- 言語知識を明示的に教授・練習
  - 例：いわゆる「日本語教育」
- 言語観：言語知識が在る
- 言語教育観：言語知識を教えるべき

間接的・結果的に
特定言語を使うための能力育成

- 言語使用の場面作り
  - 例：内容重視，イマージョン
- 言語観：言語知識・内容・文脈は不可分
- 言語教育観：内容の学習から結果的に言語習得を促すべき（塩川 2000）

言語学習能力の育成

- 学習者と教室外世界をつなぐ
  - 例：学習リソース，学習ストラテジー（宮崎2002），言語学習ポートフォリオ
- 言語観：言語知識・内容・文脈は不可分
- 言語教育観：各学習者固有の文脈に沿って，自律的な言語使用を促すべき

2
ことばを使えるようにすること以外を目指す

不平等を解決するための思想と能力の育成

- 社会的不平等を批判する視点と能力
  - 批判的言語意識教育，批判的リテラシー教育
  - 言語観：言語が社会を構築する
  - 言語教育観：言説を批判する力を育て，社会的不平等を解消すべき

（Fairclough 2001=2008; 竹川 2010;
アンドレハーノフ2006; 熊谷 2007）

表現観の育成

- 表現しよう・したいという意欲の前提：表現観の育成
- 「表現観」とは
  - コミュニケーション観：自他の発見・変容
  - 言語観：「言語能力」≠思考内容・コミュ能力
  - 人間観・文化観：多様性・平等性・変容性
  - 言語観＝表現観
  - 言語教育観：表現することへの希望こそを育てるべき

なぜその目標？
なぜその実践？
なぜその言語観・言語教育観？

ことばは教えられるのか？

引用文献

- アンドラハーノフ, A., 2007, 日本語教育における「クリティカル・リテラシー」の序論――批判性・創造性の実現にむけたメディア・リテラシー論の可能性と限界 リテラシーズ研究会（編）『リテラシーズ――ことば・文化・社会の日本語教育へ』くろしお出版, 3, pp.19-31.
- 大平美央子, 2001, ネイティブスピーカー再考 野呂香代子・山下仁（編）『「正しさ」への問い――批判的社会言語学の試み』三元社, pp.85-110.
- 熊谷由理, 2009, 日本語教室でのクリティカル・リテラシーの実践へ向けて リテラシーズ研究会（編）『リテラシーズ――ことば・文化・社会の日本語教育へ』くろしお出版, 4, pp.71-85.
- 塩川春彦, 2000, Content-Based Approach（コンテント・アプローチ） 田崎清忠（編）『現代英語教授法総覧』大修館書店, pp.296-304.
- 牲川波都季・細川英雄, 2004,『わたしを語ることばを求めて――表現することへの希望』三省堂.
- 牲川波都季, 2009a, 日本語コミュニティを創り出す――アメリカ高等教育機関での日本語教育実践より 『国際研究集会2009 外国語教育の文脈化:『ヨーロッパ言語共通参照枠』＋複言語主義・複文化主義＋ICTとポートフォリオを用いた自律学習 プログラム』64.
- 牲川波都季, 2009b,「日本文化」がないと海外日本語学習者は動機付けられないのか（田中里奈・山本冴里・牲川波都季「パネル 日本文化を教えない海外日本語教育という選択―フランス・韓国・アメリカにおける高等教育機関での実践事例から」の牲川担当部分）『2009年度豪州日本研究大会―日本語教育国際研究大会JSAA-ICJLE2009 Papers_Final_090722』http://jsaa-icjle2009.arts.unsw.edu.au/common/papers_final_090722.pdf, pp.332-333.
- 竹川慎哉, 2010,『批判的リテラシーの教育――オーストラリア・アメリカにおける現実と課題』明石書店.
- 宮崎里司, 2002, 外国人力士の日本語習得――言語管理と自然習得 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』15, pp.119-131.
- 三代純平・鄭京姫, 2006,「正しい日本語」を教えることの問題と「共生言語としての日本語」への展望 早稲田大学日本語教育研究科言語文化教育研究室『言語文化教育研究』5, pp.80-93.
- 吉村雅仁・吉田伶子・辻田理恵, 2007, 総合的な学習の時間における言語意識教育の試み 『奈良教育大学紀要』56(1), pp.175-182.
- Fairclough, N., 2001, Language and Power. 2nd ed. London: Longman.（＝貫井孝典監修, 吉村昭一・脇田博文・水野真木子訳『言語とパワー』大阪教育図書株式会社.）
- Hawkins, E., 1984, Awareness of Language: An Introduction. Cambridge: Cambridge University Press.

ことばは教えなくともよい
―多様な目標から何を選ぶのか―

秋田大学
牲川　波都季
segawa@gipc.akita-u.ac.jp
http://www.pcix.akita-u.ac.jp/kokusai/segawa/index.htm